

青年委員会だより

令和7年10月1日（第282号）

青森県建築士会青森支部青年委員会



＼今年も大盛況！／

こども建築アカデミア

新ワークショップ「こども建築アカデミア」開催！

9月27・28日 アスパム1階イベントホールにて「建設フェア2025 in あおもり」の一環で、体験型ワークショップ「こども建築アカデミア」が開催された。

今年度から内容を一新し、全てのブースを巡って一棟の“お家”を完成させる新形式に。どこからでもスタートできる回遊型スタイルは継続され、参加者は各ブースを、自由な順序で体験を楽しんだ。

事前予約制を基本としながらも、当日予約待ちで訪れる来場者も多く、2日間で計81名の子どもたちが参加した。



— ブース構成と体験内容 —

7つのブースを巡り、最後に設計ブースで組み立て完成！

- ・鉄筋：鉄筋の緊結体験をしてワイヤーメッシュをゲット！
- ・木工：お家の“箱”を木で製作
- ・板金：トタンを折り込んで屋根（箱のふた）を取り付け
- ・ガラス：スタンドグラスのチャームづくり
- ・タイル：モザイクタイルを貼り付け
- ・塗装：自由にお絵描き塗装
- ・設計：基礎づくり（粘土にワイヤーメッシュ敷き込み）



— 楽しむ子どもたちと運営の工夫 —

「鉄筋をやってみたい！」「次はタイルがいいな」と言いながら、ブースを巡る子どもたち。真剣な表情で作業に取り組み、粘土で家具も作る子、タイルで絵柄を作る子など思い思いのお家を完成させていた。また「鉄筋や板金など、実際の工具を使えたことも楽しかった」といった声も聞かれた。完成後は満足そうな笑顔で作品を手に帰っていく姿から「こども建築アカデミア」が充実した体験となったことがうかがえた。

青年委員会では「設計」ブースを担当。ブースごとの混雑状況を見ながら、先に基礎の粘土作業へ誘導するなど、臨機応変な運営が行われた。

全てのブース修了者のうち、希望した73名に「こども建築士認定証カード」が授与され、見事「こども建築士」となった。



— 次回へ向けた課題と展望 —

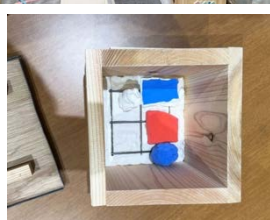
新形式での初開催となった今回は、ブース間の作業時間の差により一部に待ち時間が生じたものの、全参加者が予定内に全てのブースを体験し、作品を完成させることができた。

何よりも、参加した子どもたちが、飽きることなく全てのブースを楽しんで回れたこと、そして子どもたちの作品から私たち自身も新たな気づきを得られたことが、今回の大きな収穫となった。

一方で、仕上がりの精度やブース配分といった点において、次回へ向けた課題も明確になった。

来年度はさらなるブラッシュアップを図り、より良い「こども建築アカデミア」を目指す予定。

今後も青年委員のみなさまのご参加を、お待ちしております！



— 宮越家離れ見学会 開催 —

小川三知のステンドグラスと《春景花鳥図》にふれる



9月25日 建築士会企画委員会による宮越家離れ・庭園見学会が開催された。あいにくの雨で庭園見学は中止となったが、まちづくり委員長 三上さんの案内で、離れ「詩夢庵」を中心に見学が行われた。

この建物は、大正9年(1920年)、宮越正治氏が妻イハ氏の厄年(33歳)の厄除けと誕生祝いとして建築したもの。美術を愛した正治氏の趣味が随所に光る。中でも小川三知によるステンドグラスが幻想的な涼み座敷の間では、障子に花木と余白で四季を表し、角度により色彩が変化するモクレンが印象に残った。三知の作品が完全な形で現存する例は、国内でも非常に希少である。また、奥の間に展示された襖絵《春景花鳥図》は、大英博物館が所蔵する《秋冬花鳥図》と対を成す桃山時代末～江戸時代初期の作品。ともに奈良・談山神社に伝わったが、明治期の廃仏毀釈の混乱で流出し、1922年に正治氏が入手したとされる。雪どけの水が流れ来る春先から満開の桜に包まれる春爛漫へ、季節の推移と再生の輝きが表され、金箔の濃淡や桜の立体感の繊細さが美しい。

歴史的建築と美術工芸が調和した宮越家離れ。文化財の魅力と保存の重要性を改めて感じる見学会となった。

コレクション展2025-2

棟方志功没後50年記念展

「青森の子 世界のムナカタ」

青森が誇る世界的板画家 棟方志功は、今年没後50年目の節目にあたる。日本の伝統を踏まえた題材や装飾的な表現で独自の板画の道を切り開いた志功は、戦後、国際美術展受賞や海外での活躍によって「世界のムナカタ」として広く知られるようになった。本展では、通常一般公開されていない貴重な作品や資料が展示され、志功の愛した青森や、これまでの功績を見ることができる。

11月3日(月・祝)まで (9:00-17:00)

※最終入場 16:30

〔青森県立美術館〕

一般：700円 大学生：400円

18歳以下及び高校生：無料



アーティスト・イン・レジデンス プログラム2025「CAMP」



デザイン: 本庄浩剛
Design: HONJO Hirotaka



前谷 開
MAETANI Kai



丹治 りえ
TANJI Rie



アディ・スンドロ
Adi SUNDORO



アティッタヤポーン・センポー
Attitayaporn SAENPO

ACACが毎年開催する「アーティスト・イン・レジデンス」。今年は施設改修工事に伴い、JR青森駅東口ビル内のタッケン美術展示館が作品発表の場となる。今回のプログラム名称は「CAMP」。表現者が集い滞在する場であることや、都会的な快適さから隔離され自らの表現と向き合うことになるACACの場所性を表すとともに、「CAMP」は非常事態や生き延びていく術でもある。今回、868件の応募の中から選ばれた4名のアーティストの滞在が始まっている。例年と異なる状況で行われるからこそ、新たな視座が生まれることを期待している。

Information 10月

10月10日(金) 19:00 -

◆「こども建築アカデミア」慰労会
(和み居酒屋 滞つくし)

- 13日(月・祝)

◆佐野ゆい：まだ見ぬ「青」を求めて
(青森県立美術館)

18日(土) 17:00 - 20:00

◆ナイトミュージアム
(青森県立美術館) ※最終入場 19:30

18日(土) 10:00 - 13:00 - (各2時間)

◆託児サービス
「ファミリーサポートデー」
(青森県立美術館) ※要予約



18日(土) 25日(土)

10:00 - 13:00 - (各2時間)

◆みんなのアトリエ
(青森県立美術館)

30日(木) 9:00 - 16:50

◆二級建築士定期講習
(日建学院 青森校)
申込締切：10月19日(日)



11月13日(木) 9:00 - 17:00

◆一級建築士定期講習
(日建学院 青森校)
申込締切：10月31日(金)



編集 / 黒滝 和

「こども建築アカデミア」慰労会 10月10日(金) 19:00 ~ (和み居酒屋 滞つくし)

参加ご希望の方は 下記へご記入の上ご返信ください

FAX : 017-771-4320 / mail : info@aaba.gr.jp

氏名

TEL